

ネットワーク・コミュニティを活用した
DX 推進による都市農業振興と人材育成

1 代表機関・研究代表者
明治大学 岩崎 泰永

2 研究期間：令和4年度～令和6年度（3年間）

3 研究目的

都市農業の振興、維持発展をはかり、都市住民や学生に農業に対する関心を高め、理解を深めることによって、新規就農者や食農分野の産業にかかわる人を増加させる。

4 研究内容及び実施体制

- ① 都市農業のDXを推進し生産性を向上するツールとサービスの開発
都市農業に適したスマート農業技術として、スマートグラス、UAVデータ駆動型農業の実現を進める要素技術を確立し、都市農業のDXを進めるツールとサービスを開発する。

（ヤンマーホールディングス、東京大学工学部、日本大学資源生物科学部）

- ② 支援者生産者ネットワークの形成による都市農業の生産現場支援
支援者（JA 営農指導員、普及指導員）や研修生（学生や市民）が生産者とネットワークを形成し、スマート機器を活用して情報収集共有を行い、栽培管理の検討、問題解決を行う仕組みを確立する

（大阪府立環農水研、明治大学農学部）

5 最終目標

都市農業に適したスマート農業技術（ツール）を開発するとともに、研究機関や大学が拠点となりスマート農業技術について、地域農業の支援者（JA 営農指導員、普及指導員）に研修を行なう。支援者や研修生を通して、都市農業のDXを推進する。

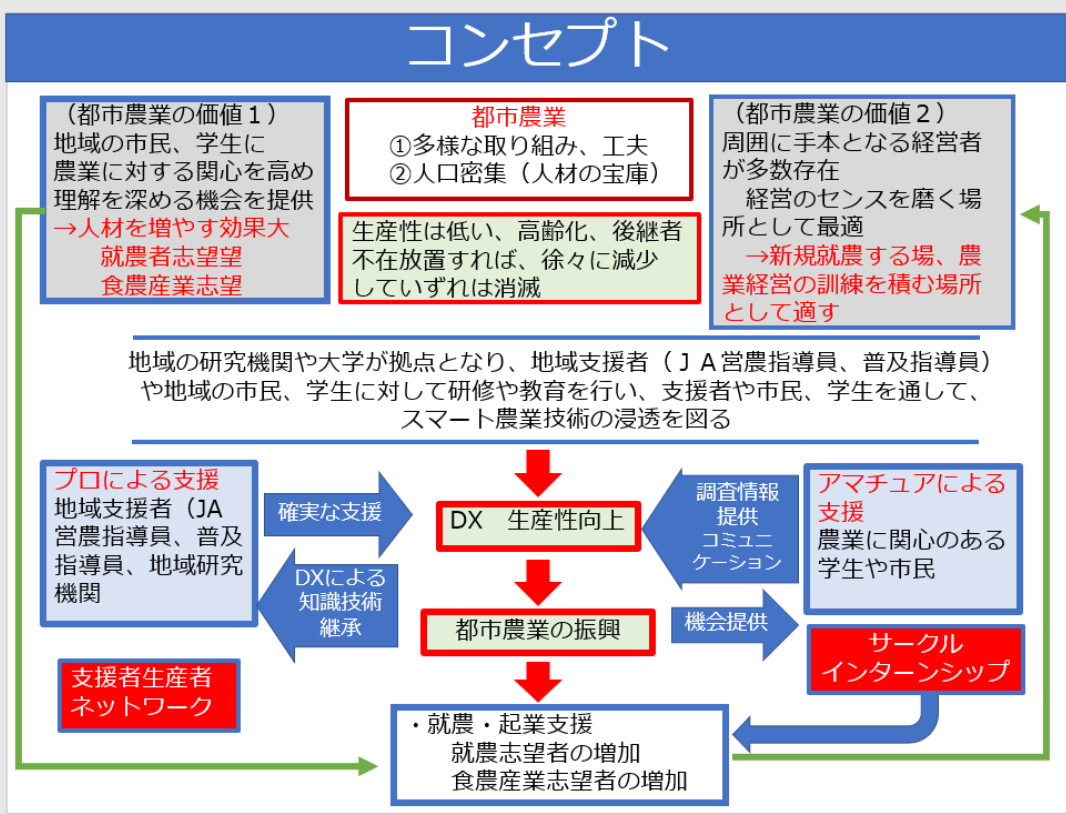
6 期待される効果・貢献

地域の住民や学生が積極的に都市農業支援に関わり、農業に対する関心を高め、理解を深め、多様な経験積む機会を提供し、新規就農者の増加、食農分野の産業にかかわる人材の増加につながる。

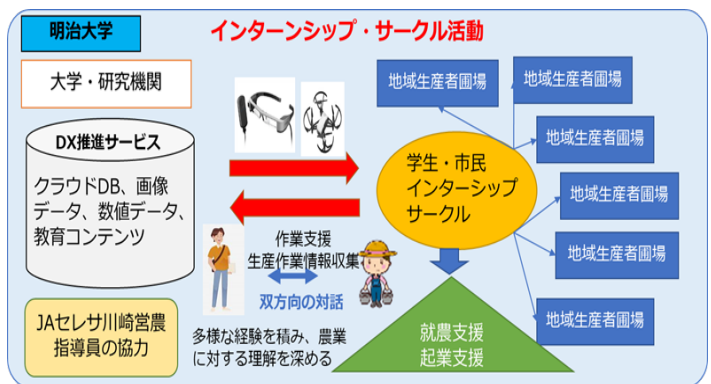
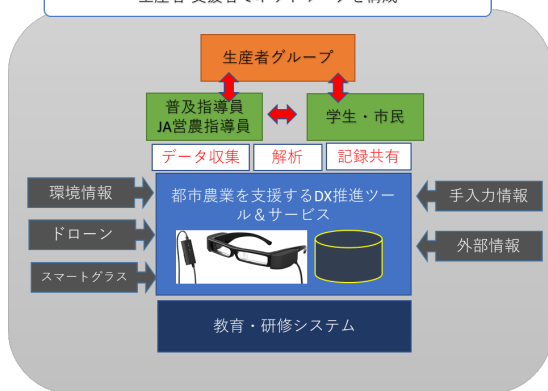
【連絡先 明治大学農学部 045-980-5300】

DX推進による都市農業振興と人材育成

都市住民や学生に農業に対する関心を高め、理解を深めることによって新規就農者や食農分野の産業人を増加させる仕組みを構築する。



生産者・支援者でネットワークを構成



<具体的な研究内容>

1) 都市農業DXを推進するスマート農業ツールとサービス開発

都市農業に特化したスマートグラスやUAVによるデータ蓄積によりデータ駆動型農業の要素技術を確認／普及促進を図る(ヤンマーHD、東京大学、日本大学)

2) 支援者生産者ネット形成による都市農業生産者の支援促進

JA営農指導員や普及指導員や研修生(市民、学生)が生産者とネットワークを形成し、スマート農業ツールを活用しつつ、情報共有を行うことで栽培管理の検討や課題解決の仕組みを確立する(大阪府立環農水研、明治大)